

Colrainでの幸せな出会い

教授 高橋 智聡

Takahashi Chiaki

金沢大学がん進展制御研究所
腫瘍分子生物学

Colrain meetingにおいて折茂先生と初めて出会ったのが2001年であったと思います。この会は、David Livingston先生、Ed Harlow先生、Bob Weinberg先生とかつて彼らのポストドクであったPIたちが各々2名までのポストドクを連れてきてプレゼンさせる、言わずと知れたボストンRBマフィアのコアミーティングです。私は、ボスのMark Ewen先生のラボが比較的小さかったことが幸いし、3回出席することができました。ColrainはMassachusetts州の山間部にある町で、Livingston先生の奥様がお父様から相続された広大な牧場がそこにあり、もとは馬小屋であった建物をミーティング用のスペースに改修したのです。参加メンバーは当代最高であります、交わされる議論の厳しさから、我々ポストドクはCold rain meetingと呼び換えていました。この年の夕食会で偶然ひとりの日本人の隣になりました。とても気さくな方で、すぐに打ち解けました。この会ではビッグボス達が厨房やサービスを担当するのが習わしで、この年Ewen先生と私は、行き道のStop & Shopで大量のオイスターを買い出しする任務を仰せつかりました。Weinberg先生が我々を見つけ、「オリーモーサーン」といいながらこの日のメインであるジャンバラヤをお皿によそってくれました。味付けが随分辛かったので私はWeinberg先生に辛いぞと文句を言った覚えがあります。その辺にいたポストドク達とも仲良くなり、実に楽しい夜でした。「オリーモーサーン」は、果たして翌日2005年の有名なCell論文に繋がるCancer Associated Fibroblasts (CAF)に関する非常に重要なデータを披露したのです。その後、私は京都そして金沢へ、折茂先生は英国ラボを経て東京へ。国内の学会でお会いする機会が増え、共同研究のお話も出てきました。お会いする毎に折茂先生はCAF周辺分野の最新のお話を詳しく情熱的に教えてくれます。真の学究とはこういうものだと尊敬申し上げております。さて、添付の写真の一葉目は私と折茂先生が写ったもの、もう一葉は、有名PIがかなり集中しているものを選んであります。ノーベル賞受賞者もいます。皆さん、何人の顔が判りますか？二葉目の背景がいわゆる「Livingstonの馬小屋」です。Livingston先生は愛弟子Bill Kaelin先生の受賞を見届け一昨年亡くなりました。

